

本部だより

●第7号



マーシャル方面遺族会



マーシャル方面遺族会ケゼリン島慰霊碑

謹賀新年

平成十五年元旦

本部役員及び篤志会員

相談役 おきゆうきよこ 大給湛子 幹事

会長 黒川 誠 同

副会長 晝間楽平 同

常任幹事 石谷典夫 同 晝間志津子

同 荒木常子 篤志会員 松平永芳

同 高橋鎮夫 同 徳原徳子

幹事 高林芳夫 同 山村 要

平成十五年度

慰霊祭・総会・直会のご案内

会長 黒川 誠

会員、会友の皆様には、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

本年の慰霊祭、総会、直会を次の通り行いますので、お誘い合わせの上、ご参加下さいますよう、お願い申し上げます。

■慰霊祭 平成十五年四月五日(土)
午前十時靖国神社本殿。受付開始は午前九時参集所前(受付で出席名簿と照合なさらぬ方は昇殿参拝ができません)。

■定期総会 会場は新装なった靖国会館(田安・玉垣の間)。

■直会(なおりい) 総会終了後その場が直会の会場となります。会費は四千五百円。閉会は午後三時を予定。

●当日の出欠に関わらず、同封のはがき全欄にご記入の上、二月末日まで本部に到着するようにご投函願います。欠席の方も会員の現状把握に必要ですので、必ずお願い致します。

●直会に出席の方で、取り消し希望の方は三月三十一日までに本部へご連絡下さい。納入済みの料金は後日返金致します。連絡が遅れた場合は返金できませんのでご了承下さい。

●当日の参加はお弁当の注文が限られておりますのでお受けできません。

◆本会への寄付金・直会費・玉串料(一名につき五百円)は、すべて同封の郵便振替用紙で二月末日までにお送り下さい。玉串料等々の現金は受付では取り扱いません。

◆九段会館へ宿泊希望の方にお知らせ致します。

●宿泊費(一名九九七五円・一泊朝夕食付き)は、各自でお支払い下さい。本部より予約済みです。

●九段会館宿泊部(東京都千代田区九段一・六・六 電話〇三・三二六一・五五二一)

永代神楽祭申込みの報告

会長 黒川 誠

平成十四年度総会の決議に従って七月八日マージナル方面遺族会の名のもとに正式に申込みを致しました。本会の場合は遺族会として申込みを致しましたので、通常の永代神楽祭と異なる

申込みを致しました。即ち、本会の主旨を十分盛り込んだ祝詞(のりと)を予め用意して奉慰の際にはこの祝詞を読み上げてくれるように要望書を提出致したのですが、祝詞奏上には神社側内規があり、本会の主旨通りには難しいとのことでしたが、主旨に副うように考慮して戴き、左記のような祝詞を特別に作って戴きました。

平成十五年の永代神楽祭は、第一回の命日祭になりますので、当日の命日祭はなるべく多くの方々に参加をお願い致します。九段会館には宿泊の予約をしてあります。出席希望の方は、同封はがきに丸印をして戴くか、六月末日までに本部宛お知らせ下さい。

一、永代神楽祭申込み名

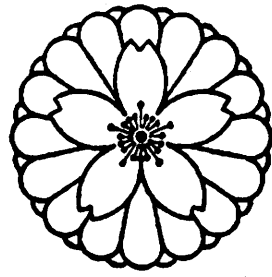
マージナル方面遺族会

二、命日祭(午前十一時より)

毎年七月十五日(みたま祭)

三、祝詞(のりと)

左ページ右下をご参照下さい。



この度當神社御祭神

マシヤル諸島及び諸島周辺の島々を身籠りし
秋山門造命山田道行命榮時惠次命
西祥實命はじめ三萬餘余柱の命等

奉慰の永代神楽を御奉納になりま

したので今後毎年七月十五日に

御奉仕致します

平成十四年七月八日

靖國神社宮司湯澤

貞



マシヤル方面遺族会殿

クエゼリン島慰霊碑建立のいきさつ

再録・その二

霊璽の謹書・霊璽収納容器制作・慰霊祭の報告

霊璽の謹書

(環礁第十三号・昭和四十六年一月一日)

慰霊碑建立という一連の仕事の中に、慰霊碑本体内に戦没者の氏名を未来永劫に遺す霊璽簿の謹書ということがあります。

書家に委託すれば一字一字は上手に仕上がるが、親近感がないのと、第一筆耕料も少額ではすみません。会員のだなたにお願いと致しましても御忙しい方達ばかりで書く人を決めるのに役員会がお困りのようでした。

これをお聞きして前会長(注・林茂清初代会長)、私の父が「皆さんはそ

れそれぞれ忙しい。手分けすると名簿資料配分も容易でなし、万一散逸等のあることがあつては取返しがつかぬことである。字の上手下手が問題ではないのぢや、肉親の者が謹書してこそ魂が入るのぢや。お前書け」という一言で不束なことも、悪筆も承知の上で謹書することに致しました。

千年か五千年か先のことはわかりませんが、一度納めたら永劫に遺されるもの。紙質、墨質も厳選を要するといつて主人は靖国神社の鈴木禰宜様に神社での記載方法をお尋ねしました。結果、紙筆墨類を準備してくれました。但し筆で書いていたのでは時間的に間に合わないのでペンを使うことになり

ました。

それからというもの明けても暮れても書きつづけました。島毎に五十音順に綴られた名簿をもとにしました。毎日家事は早く片付けて机に向いました。お一人お一人間違ひのないよう緊張の時間を過しました。途中で電話がかかる、お客様がおいでになつて中座しますと又心を落ちつけるため深い呼吸をくり返し、粗相のないよう気をつけました。

だなたもお顔は知らない方ばかり。中には韓国の方も沢山見受けました。例令国は違つても、祖国を思う心に変わりなく、鉄も溶かすという南海の孤島で、遙かに故国に思いを馳せて、難儀な一日一日をお送りであつたらうになど感無量でした。

年老いたお祖母様との二人暮しであったとか、病身孤独の父一人残して征つたとか、毎年の慰霊祭毎にいろいろと承つたことも次々に頭に浮びまし

た。

クエゼリンのハのところでは私の弟林大の名を書きましたとき、その最後はどうであったか、女々しいことはなかつたろうか、立派に自刃してくれたかしら、敵につかまったりはしなかったか、しばらく目を閉じたこともありまして。こうした毎日の日課が一ヶ月でやと書き終りました。

三万余と聞きましたので毎日千人余の方々の名前を書きつづけました。

これが三冊の立派な霊壘簿となって製本されて来たときは胸が一ぱいになりました。早速前会長に見ていただきましたが、とても喜び満足して下さいました。この三冊が碑の中に納められ、永遠に開かれることのないまま南の珊瑚礁に納めておきましょう。

この稿を書き了るに当たり、またまの心やすかれと念じて筆を置きます。

(浮田桜代)

霊壘収納容器の製作について

(環礁第十三号・昭和四十六年一月一日)

このたび慰霊碑建立特輯号発行に際して、当時霊壘収納容器製作をお引受け致した私に、それらの模様等につき会報を通じて皆様にお知らせする様ご指示がありましたので当時を回顧しながら二、三申し述べさせていただきます。

想いおこしますれば、彼の地に慰霊碑建立の願いを達成致しましてより既に二年有余の才月が流れました。この慰霊碑建立の事業こそは、私共会員一同にとりまして何事にも優先してなさねばならぬ最大の悲願でありました。

然し乍ら彼の地が吾が国の主権の及ばぬ遠隔の然もアメリカの基地内であり、剩え、それら事業遂行には全くの素人の人々が只管その熱意と善意とを結集して遂にこれを実現し会長さん以

下全会員が相抱いて喜び感激した記憶は、今も鮮やかによみがえつて参ります。

慰霊碑の製作は専門家に設計製作を依頼し、皆様も御存知の様なデザイン、材質其他に比類なき美事な出来栄で如何にも本会にふさわしい傑作でした。

その中にお祀りする霊壘を如何なる材料、方法でお納めするのが良いかに焦点を絞って苦勞致しました。

先づ材料の選定ですが、現地の気候風土に合せて対水、対湿等条件に適した材質は銅より現代的なステンレスチール・一八・八クロームの方が優位と判断致しこれを使用しました。

又工作上の問題点である霊壘収納後容器の密閉ですが、収納物の性質上溶接及びロー付等高温加熱する事が出来ませんので特種低温溶接を採用致しました。

以上の如く何千年もそして永久に御

霊安かれと念ずる遺族全員の願いが通じ永遠に南海の楽園に鎮まることと確信致して居ります。

奇しくも本年アジアで始めての万博が日本に於いて開かれ、これを記念して某メーカーが五千年後の後世に伝えるべく、あらゆる近代科学の総力を結集して、タイムカプセルなるものを作成致しましたが本会の慰霊碑はこれに優るとも劣らぬ立派な価値あるものと確信しております。

なぜなら、これこそみたま安かれと祈る私共遺族の、日本人の心が宿っているからでございます。

水も空も、碧く美しく澄みきった南海に浮かぶ彼の地に、私共会員一同が願いをこめて建立した「慰霊碑」の奥深くに安置した「霊璽収納箱」と共に、この中に奉安された多くの護国の英霊の皆様の神界での日々がとこしなえに晴れやかならむことをお祈り申し上げつつこの稿を終ります。

収納容器の大きさ

厚さ 〇・四ミリ

横 一八センチ

縦 六八センチ

深さ 一七センチ

(晝間楽平)

クエゼリンにおける

日本戦没戦士慰霊祭の報告

クエゼリン実験地域警備隊

オグデン陸軍中佐

(環礁五号・昭和四十二年一月一日)

御返事大変に遅れ申訳けありません。実は当地の慰霊祭の報告だけでなく慰霊碑建立の場所の回答も一緒に致したかった為です。御寛容の程お願いします。当地に建碑の承諾は、当地の司令官だけでは為し得ず、本国の上級司令部に伺いをたてる必要があります。只今照会中です。従って今回は先日行った慰霊祭の御報告だけしかできません。

写真左より、慰霊祭の準備をするヒーラー大佐、オグデン中佐、マイロン中田氏



とお許し下さい。
祭典は(昭和四十一年)九月三十日(金)の午後三時にはじめ、十月二日午後七時まで施行しました。素晴らしくよい天気でした。数名の日系の人を加え、本島在住の多数の人々が敬虔な礼拝を捧げました。

私達は全然日本の習慣を知りませんのでマイロン中田氏の御協力を願いました。同氏は当地の建設工事に従事の日系の方で、今なお日本に立派な親類をおもちの方です。この方の監督のもとにお供物を供え、三日に亘る祭典の幕が開かれました。

同封の新聞は、本島発行のアワグラス紙の九月二十四日号と十月一日号です。

(浮田記・九月二十九日号には「日本殉国戦士の慰霊祭」という見出しで「マールシャル・ギルバート方面で戦死の日本人慰霊のための祭典が明九月三十日午後から施行され、十月二日の夕刻まで日本人墓地で行われる」)

この祭典はマールシャル・ギルバート方面遺族会の御希望を、浮田信家氏の斡旋によりクエゼリン実験地域警備隊が執行するものである。同遺族会は三万余の戦死者の遺族で構成されている。祭典は、戦死者に対し日本で通常

行われている方式に従う。祭壇は白布をもつて覆はれ、その上に英霊の位牌を中心に日本の草花、菓子、日本酒、ウキスキー、煙草、茶、お香等数々の懐かしい故郷の品が供えられている。なお式典の三日間線香がともされ、芳香が漂いつづける。従ってアメリカ方式の方式は行はない。午後三時には本島の幹部大部分参集し、敬虔な礼拝を行う。

(注・写真説明のため中略)

日本のしきたりを知りませんが、最も心を込め、おごそかに行いました。祭典後お供物は式場作りを手伝った人々にお頒けしました。

又貴会から特に私共にお心を込めお贈り下さったサントリー・ウイスキーありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

さて、貴会の御希望に対してもっと大切な建碑の事です。私としては今から三十日から六十日の間に御返事を差

し上げられればよいかと願っています。何しろ米本土は、ここから七五〇〇哩も離れておりそこで決めることですからこの遠方での事務処理には相当日時を要すること、おわかりいただけると思います。

終わりにのぞみヒール大佐と私自身から貴会会員の御多幸をお祈りしております旨お伝え下さいますようお願い致します。

(浮田註・お役所仕事はどこでも時間をとられるものでしょうか。七五〇〇哩といっても現今は近い距離、又一、二ヶ月というのを三十日とか六十日とか大げさな数を使ったのはオグデン氏のユーモアーだと思えます。慰霊祭が思うようにすみ、本会にも喜んでもらえるというホッとした気軽さからだと思えます)

(編集部注・再録に当たり、旧漢字、旧かなづかいをそのまま表現しているところがあります)

山口裕子団長とブラウン司令官



クェゼリン島主碑にての慰霊祭（平成14年11月5日）



慰霊祭後に参加者16名揃っての記念写真（平成14年11月7日）



寄付者芳名

次の皆様は、慰霊奉賛のため
浄財をご寄付下さいました。
厚く御礼申し上げます。今後共
本会の存続のため、何分ともよ
ろしくご協賛賜りますようお願い
申し上げます。

敬称略

〔北海道〕伊藤フジ〔岩手県〕
高橋吉正〔東京都〕篠崎秀夫・
香月正紀〔神奈川県〕糺谷友孝
・平松菊江〔静岡県〕市川市郎
〔石川県〕林庄三〔愛媛県〕三
好邦博・渡部守〔高知県〕石元
利親〔沖縄県〕久高友三
（平成十四年四月二十四日から
十二月末まで合わせて五万八千
円）

お詫び

本部だより6号「慰霊祭参加
者芳名」欄において「東京都」
山森久江様のお名前がもれてお
りました。ここに訂正し、謹ん
でお詫び申し上げます。

●次号予告 8号は昨年行われ
た現地慰霊祭特集です。ご期待
下さい。

●環礁・本部だより：第7号●発行日：平成15年2月1日●発行人：黒川 誠

●マーシャル方面遺族会本部：〒142-0051 東京都品川区平塚 3-4-17 ●電話 03-3783-8382 ●FAX03-3783-8384

●振替：東京 00100-0-9387